

## 国際シンポジウム「不確実な時代の国際文化交流：日・独・英の現場から」 ～各国の国際文化交流機関代表者と現場で活躍する実践者がこれからの交流について考える～

国際交流基金（JF）は2022年10月27日（木）、ドイツ及び英国の国際文化交流機関であるゲーテ・インスティテュートとブリティッシュ・カウンシルと共同で、国際シンポジウム「不確実な時代の国際文化交流：日・独・英の現場から」を国際文化会館岩崎小彌太記念ホールで開催します。

新型コロナウイルスの世界的流行を受けて人の移動や接触が制限されたことにより、急速に機会を失ったリアルな場での交流。国際文化交流を実践する機関や、アートや教育、多文化共生の現場で活動する実践者にも多大な影響をもたらしました。2年半が過ぎ、徐々に活動再開の動きが出てきましたが、ロシアによるウクライナ侵攻などの地域紛争も国際移動に影響を及ぼし、個々人の交流はまだ回復しきったとは言えません。不確実性が増した世界での文化交流のあるべき姿を、日本、ドイツ、英国の国際文化交流機関の代表と、文化交流の実践者たちとの議論を通じて浮き彫りにします。

第一部では、ドイツからゲーテ・インスティテュート総裁のカローラ・レンツ博士が来日し、JF 理事長の梅本和義とブリティッシュ・カウンシル駐日代表のマシュー・ノウルズ氏の2名を加えた各国機関の代表者が登壇。モデレーターに「ソーシャル・ディスタンス外交－不確実な時代におけるソフト・パワーとパブリック・ディプロマシーの未来」などパブリック・ディプロマシーの分野で多くのレポートを発表しているジョナサン・マックロリー氏を迎え、事業としての国際文化交流を誰にどのように届けるか、その政策や支援の在り方などについて議論します。

続く第二部では、現代アートの分野で美術家として、教育者として、社会的課題とアートの接点で活動している藤浩志氏、現代演劇の分野で国際的なプロジェクトを開拓してきた中村茜氏、近年、特にダイバーシティの観点からアートプロジェクトを手がけている森真理子氏など、文化交流の第一線で活躍中の3名が、それぞれの実践を通して浮かびあがる課題や展望について話し合います。

本シンポジウムが、今の不確実な時代にあって、文化を通じて世界とどのように関わっていくか、関わっていけるか、みなさまとともに考える場となることを願っております。

### 記

事業名称：国際シンポジウム「不確実な時代の国際文化交流：日・独・英の現場から」

主催：国際交流基金

開催日程：2022年10月27日（木） 14時～16時30分

言語：日本語・英語（同時通訳あり）

参加費：無料（要事前申込み）

定員・申込：定員100名（先着順）

<https://www.jpff.go.jp/j/project/intel/exchange/symposium/index.html>

会場：国際文化会館 岩崎小彌太記念ホール ※会場開催のみ（オンライン配信なし）

共催：ゲーテ・インスティテュート東京、ブリティッシュ・カウンシル

### この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)

【第1部】 日・独・英リーダーズ・フォーラム「不確実な時代の文化交流」

世界情勢を見通すことが難しい現状における文化交流の課題や役割、文化交流の新たな概念や方法論などについて、それぞれの国の視点から議論します。

モデレーター： ジョナサン・マックロリー（Sanctuary Counsel パートナー）

登壇者： カローラ・レンツ（ゲーテ・インスティテュート総裁）

マシュー・ノウルズ（ブリティッシュ・カウンシル駐日代表）

梅本和義（JF 理事長）

【第2部】 パネルディスカッション「国際文化交流の新たな地平」

アート、教育、多文化共生など異文化交流の現場で活躍する実践者が、コロナ禍以降の世界が交流にもたらした課題と可能性について具体的事例を交えて議論します。

モデレーター： ジョナサン・マックロリー

登壇者： 中村茜（株式会社 precog 代表取締役、パフォーミングアーツ・プロデューサー）

藤浩志（美術家、秋田市文化創造館館長、秋田公立美術大学教授）

森真理子（厚生労働省・障害者文化芸術計画推進官）



以上

---

**この件に関するお問い合わせ：**

国際交流基金 広報部（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)

**登壇者略歴**

【全体モデレーター】



ジョナサン・マックロリー  
Sanctuary Counsel パートナー

世界的に著名なソフトパワー、パブリック・ディプロマシー、外交の専門家。各国政府に対して政策、世評、ブランディング、戦略的コミュニケーションに関する助言を行う。Sanctuary Counsel 入社前は、Portland 社のアジア担当ジェネラルマネージャーとして、シンガポールを拠点にインド太平洋全域にわたる同社の業務を構築・管理。また、ロンドンの Portland 社で政府諮問業務のパートナーを務め、年次調査書「ソフトパワー30」を作成。Portland 社での勤務に先駆け、Winkreative 社（Monocle 誌の姉妹会社）でブランディング戦略を統括し、タイ首相からの委託により、タイの新しい国家ブランドとグローバルキャンペーンの開発・立ち上げを担当。ボストン・コンサルティング・グループのロンドン事務所でコンサルタントとしても勤務。民間部門での勤務以前には、シンクタンク Policy Exchange の研究員、Institute for Government (IfG) の上級研究員を歴任。IfG 在籍中にソフトパワーを測る世界初の総合指標を開発し、この研究が後に「ソフトパワー30」の作成につながった。

【第一部】 日・独・英リーダーズ・フォーラム「不確実な時代の文化交流」&gt;



© Goethe-Institut /  
Loredana La Rocca

カローラ・レンツ  
ゲーテ・インスティテュート総裁


1954 年ブラウンシュヴァイク生まれ。ゲッティンゲン大学およびベルリン自由大学にて、社会学、政治学、ドイツ文学、教育学を学ぶ。1987 年、ハノーファー大学にて博士号、1996 年にはベルリン自由大学で大学教授資格を取得。1996 年から 2002 年までフランクフルト大学にて人類学の教授を務め、2002 年から 2019 年まで教鞭をとったマインツ大学では現在も上級研究教授に在任している。ドイツ人類学会会長（2011～2015 年）、ベルリン＝ブランデンブルグ州立人文科学アカデミーの副学長（2018～2020 年）を務めた。客員教授や研究員として、フランス、オランダ、アメリカ、南アフリカに滞在。ベルリン高等研究所（Wissenschaftskolleg zu Berlin）のフェローとして「西アフリカにおける家族史と社会変動」をテーマとする研究調査グループを主導（2017～2018 年）。研究分野は、エスニシティ、ナショナリズム、植民地主義、記憶のポリティクス、グローバル・サウスにおける中産階級、国際労働移動など。研究初期は南米にて、1987 年以降は西アフリカで、定期的にフィールドワークを行っている。主な著作に『Land, Mobility and Belonging in West Africa（西アフリカにおける国家・移動・帰属性）』（2013）、『Remembering Independence（独立を記憶すること）』（2018）、『Imagining Futures: Memory and Belonging in an African Family（想像の未来：アフリカのある家族を例にみる記憶と所有物について）』（2022）がある。


**この件に関するお問い合わせ：**

国際交流基金 広報部（広報担当：熊倉、原田）


Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)

	<p><b>マシュー・ノウルズ</b> ブリティッシュ・カウンシル 駐日代表</p> <p>イングランド生まれ。エディンバラ大学とユニオン神学校で神学修士号を取得後、2002年スコットランド政府教育部門でキャリアをスタート。エディンバラのブリティッシュ・カウンシルに入職、ドイツ、イタリア、バングラディッシュ、イギリス（ロンドン本部）で要職を歴任後、中国華東地区代表として上海での4年にわたる赴任を経て、2020年1月、ブリティッシュ・カウンシル駐日代表 兼 駐日英国大使館文化参事官に着任。</p>
---	--

	<p><b>梅本和義</b> 独立行政法人国際交流基金 理事長</p> <p>1977年外務省入省。北米局日米安全保障条約課長、アジア大洋州局北東アジア課長、在マレーシア日本国大使館、在英国日本大使館勤務などを経て、中東アフリカ局参事官、北米局長、在スイス大使、内閣官房副長官補、在国連代表部大使（次席常駐代表）、在イタリア大使、内閣官房 TPP 等政府対策本部首席交渉官などを歴任。2020年10月より現職。</p>
--	---

【第二部】 パネルディスカッション「国際文化交流の新たな地平」

 <p>©Takuya Matsumi</p>	<p><b>中村茜</b> 株式会社 precog 代表取締役、パフォーミングアーツ・プロデューサー</p> <p>1979年東京生まれ。日本大学芸術学部在籍中より舞台芸術に関わる。2004年～2008年 ST スポット横浜プログラムディレクターを経て2006年、株式会社 precog の立ち上げに参画、08年より同社代表取締役。2016年～2018年アジア・カルチュラル・カウンシル（ACC）のグランティとしてバンコクとニューヨークに滞在。現代演劇、コンテンポラリーダンスのアーティストやカンパニーの国内外の活動をプロデュースするとともに、サイトスペシフィックなフェスティバルや領域横断的な人材育成事業、動画作品をバリアフリーと多言語で配信するプラットフォーム事業などを手掛ける。チェルフィッチュ・岡田利規、ニブロールおよびミックヤナイハラプロジェクト・矢内原美邦など日本の現代演劇、コンテンポラリーダンスを牽引するアーティスト・カンパニーの、国内外の活動をプロデュース。海外ツアーや共同製作のプロデュース実績は30カ国70都市に及ぶ。令和3年度（第72回）文化庁芸術選奨・文部科学大臣賞新人賞【芸術振興部門】受賞。</p>
--	--

	<p><b>藤 浩志</b> 美術家、秋田市文化創造館館長、秋田公立美術大学教授</p>
--	--

**この件に関するお問い合わせ：**

国際交流基金 広報部（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)



京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。パプアニューギニア国立芸術学校講師、都市計画事務所勤務を経て、「地域資源・適性技術・協力関係」を活用した美術表現を志向し、ジャンルにこだわらないプロジェクト型の美術表現を実践してきた。2012年より東北に拠点を移し、2018年にNPO法人アーツセンターあきたを創設。2014年度国際交流基金地球市民賞を受賞したNPO法人プラス・アーツの副理事長も務める。



森真理子

厚生労働省・障害者文化芸術計画推進官

京都造形芸術大学舞台芸術研究センター等での勤務の後、2006年よりフリーランスで、美術・舞台などジャンルを横断し企画制作を行う。2009年より舞鶴市にて「まいづるRB」ディレクターを務め、自治体や学校、福祉施設と連携したアート事業を展開。「さいたまトリエンナーレ 2016」プロジェクト・ディレクター等のほか、2017年より日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS にて、多様性をテーマにした芸術祭「True Color Festival」のプロデューサーを務める。2022年6月より現職。

**この件に関するお問い合わせ：**

国際交流基金 広報部（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)